

金曜の会の報告

- 1 期日 3月13日
- 2 場所 倉敷労働会館
- 3 参加者 O、TA、AK、AS、YO、AR

4 内容

- ・教材解釈「だいじょうぶ だいじょうぶ」

まず、変化を探しました。

年齢的な変化。①赤ちゃんに近い頃。「とことこ」あるくし、2歳ごろ？②「～になりました」とあるので、変化がある。周りに字があふれてるけど読めない字ばかり。③ずいぶん大きくなった頃。「～ことでした。」の部分は、過去を振り返っているのので、③の時期です。

「だいじょうぶだいじょうぶ。」と言っている人の変化。おじいさん→ぼくとおじいさん→ぼく。おじいさんが言っていた、おまじないのような「だいじょうぶだいじょうぶ」をぼくも言うようになり、その結果②の時期と比べて多くの変化が起きました。

で、大きくなれそうにないと思うえるときもあつたぼくが、ずいぶん大きくなりましたと言うにいたるのですが・・・

その他、9段落で「だいじょうぶだいじょうぶ」となぜ2回続けるのか。なぜ、手を「にぎる」のか、にぎらなくてもよいし、つなぐでもよい。その、イメージをすることが大切ということも話題になりました。

まとめ

- ・変化を見つけることで大まかな構造をとらえよう。
- ・子どもの言うことを想定し問題をつくりながら解釈しよう。(AR)

教材の構造をつかみ中身に入っていくために、とにかく『変化』にこだわって問題作りをしました。

8段落の『いくら勉強したって～このまま大きくなれそうにない』が、17段落では『ぼくは、ずいぶん大きくなりました。』と自覚しています。大きくなる基準は、身体ではなく中身です。それが分かるのが、16段落の終わりの2文です。『もっともっと、～出会える』これは、社会的になるわけでもなく、動物園やサファリパークに通うわけでもなく、植物園

に行ったり散策をたくさんしたりするわけでもありません。直前の『むずかしい本も、いつか読めるようになる』つまり、難しい本＝例えば専門書のような本の中で、人・動物・草・木に出会うという意味です。

1段落の段階で、おじいちゃんはもちろんおじいちゃんです。そこに、わざわざ『今よりずっと元気だった』と書いているのか？毎日のようにしていたお散歩は、今のおじいちゃんからは想像できないくらい、今は弱り果てているのでしょうか。歩くどころか、もう会話もできない状態なのかもしれません。それが、17段落の『おじいちゃんは、ずいぶん年をとりました。』のずいぶんにつながるのでしょうか。だから、『おじいちゃんの手をにぎり、何度でも何度でもくり返します。「だいじょうぶ　だいじょうぶ。」』と、自分がおじいちゃんにしてもらったことを、『ぼくの番』と自覚したのだと思います。このお話は、「だいじょうぶ　だいじょうぶ。」の部分しか、「」がついていません。18段落は、最後の1行だけなのかもしれません。だいじょうぶだよ、おじいちゃん。もっとも会話文らしいのに、「」がないのは、もう声にならないものがあるのかもしれません。このお話は回想ですが、これだけ詳細に回想した文章を書くということは、そこに筆者のよっぼどの思いがあるのだと思いました。(Y0)